

~福祉は住宅に始まり、住宅に終わる~



日本は世界一の長寿国です。しかし、いま高齢者に最も関係がある年金問題をはじめ、医療・介護保険が破産状態に見舞われています。この一番の原因は医療費削減と表裏一体である高齢者住宅の取り組みが無かったことです。

朝
あるホームの一日
お年寄りの朝は早い。ゆつたりとしたセミダブルベッド

をしてくれる介護士が近くに居てくれるというものです。



足湯を楽しむ

茜法人では、四年前からケア付住宅を検討してきました。病院の東隣の敷地に、木造平屋の有料老人ホームの計画を進めています。
新しい「ケア付住宅」は、まずお年寄りの活き活きした暮らしを第一に考えての施設です。次に、介護としての食事やトイレ、入浴が整っている。そして、困った時に介助

昼
病院へリハビリに行ったデイサービスを利用されています。

から目覚めます。部屋からは洗面している音やお経の音が聞こえてきます。建物は十部屋一組の三ユニットからなり、中央のロビーでつながっています。ユニットは部屋を囲む形で南向きにロビーがあり、食事や団欒の場所となっています。



各部屋の入り口と書院窓

高齢者住宅には、特養や老健などの『介護施設』とケアハウスや有料老人ホーム、高専

ています。朝食のご飯と味噌汁は各ロビーのキッチンで準備されます。朝食前に、ホーム周辺の散歩や菜園作業に精を出す方も見かけ、中央のロビーでは太極拳の体操をビデオに合わせて行っています。朝食は好きな時に摂れるようにキッチンのヒーターで保温され、車椅子でも洗える流し台で各人が箸や茶碗を洗っています。

夜
入浴は中央に個浴と三人用浴とそれに足湯があり、いづれも庭が眺められ、夕方はライトアップをして四季が楽しめます。夕食後は、廊下のベンチで雑談したり、ロビーにはいろいろの間があつてお茶を楽しめます。就寝時間になると各部屋の書院窓から一つ一つ灯が消えて一日が過ぎて行くのが分かります。眠れない方には「北の屋台」が用意されようとしています・・・

たり、買い物や友達の家、自宅の法事などで外出される方がいます。また、図書コーナーで熱心に雑誌や新聞を読んで過ごす方、息子夫婦が見舞いに来る日という事で介護員さんも手伝って部屋の掃除や後片付けに余念がない方など、様々な過ごし方があります。

賃など『ケア付き住宅』があります。暮らしを大事にするケア付住宅が欧米では主流となつていますが、我が国では欧米の高齢者人口五〜十%前後(本邦換算百二十五万〜二百五十万人)の整備に比して、一% (二十五万人) 前後と著しく出遅れています。

高齢者住宅の整備比較 (ケア付住宅 □ 施設) (%)

